

日本臨床麻酔学会 第45回大会への軌跡

大会長奮闘記⑫「一般演題募集～目標達成までの道のり～」

学術集会のプログラムにおいて、一般演題は重要な柱の一つです。質の高い演題が集まることはもちろんですが、一定数の応募があることも学術集会全体の活気を支える大切な要素となります。今回は、その演題募集の舞台裏を少しご紹介します。

■スタートは静かに

一般演題募集期間は、4月15日から6月17日までと設定しました。募集開始直後は予想どおりスローペースで、5月1日時点での応募数は13演題にとどまり、やや不安の残る立ち上がりとなりました。

■締切間際の加速、そして延長へ

しかし、学会運営ではよくある「締切直前のラッシュ」が訪れ、6月17日には210演題まで一気に増加しました。それでも目標の300演題には届かず、募集期間を6月30日まで延長する

ことに決定しました。そして、少しずつ応募数が積み重なり、6月末には257演題となりました。

■再延長と最後のお願い

“もうひと声”ということで、最終的には7月7日まで再延長することにし、あわせて、6月末に評議員へも再度、周知をお願いしました。その結果、7月に入ってから着実に応募数が増え、最終的には330演題の応募となりました。

...

もちろん、発表する内容が最も重要であることに変わりはありません。しかし、応募数が一定数に達することで、多様な議論が生まれ、セッションの構成にも柔軟性が生まれます。今回、目標であった「300演題」を超えることができたのは、関係者の皆様のご支援とご協力の賜物です。

ご応募いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

(上村 友二、祖父江 和哉)